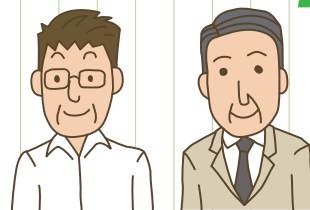




学校統廃合は誰のため?

今年1月、文科省が公立小中学校の統廃合に関する手引きを示したことで、学校の統廃合が再び注目されています。県内でも近年、統廃合が急速に進みつつあり、現在も検討中の地域があります。過去に統廃合を経験された元教員のお二人に、何がどのように変わったのかを伺いました。

(司会進行) 谷口康男(福井県教職員組合執行委員)



Bさん 在職中に統廃合を経験した元教員。
Aさん

—— 統廃合はどのように進められたのですか?

Aさん 統合の3、4年前から、保護者、地域、学校に対して、教育委員会からの説明がありました。小さい学校のデメリットを聞いて、反感を持つ親御さんもいたようです。その後、地区外の有識者によるヒアリングもあり、それなりに意見の吸い上げも情報開示もされていたと思います。ただ複数校の合併計画でしたが、地理的なことや文化の違いから予定通りの学校数の合併は実現しませんでした。

—— 地域の反応はいかがでしたか?

Bさん 意外ですが、地区の高齢者は容認派が多かったです。すでに子どもや孫が外に出ていたからかもしれません。若い方も外に働き出ていると、暮らしが地域に根差していないから、影響が少ないようでした。

—— 学校内で心配する声はなかったのですか?

Aさん うちの場合は、統合してもそう大規模化するわけではなかったのです。それ

でも年1回だった学習交流会を徐々に増やして合併の前年には8回にし、子ども同士がなじめる配慮はしました。教員が子どもの様子を知るためにも、地域の理解を得るためにも、時間をかけることは大切です。

学校より影響が大きいのは、地域

—— 合併後のトラブルはありませんでしたか?

Aさん 実は人数が適度に増えて、むしろ指導ではプラス面が多かったです。給食の配膳方法など細かい違いも、子どもたちで決まりを作って解決していたようです。

Bさん 指導については規模の大小で一長一短があるけれど、教員が工夫して対処できるようなしていくべきだと思います。小さい集団では競争力が育たないというのも、結局は個性の違い。大抵は大人数の環境に入ると慣れていきますから。

—— 地域に変化はありましたか?

Bさん 廃校になった地区ではどうしてもつながりが希薄になり、行事が減って住民

のパワーが落ちてしまう。校舎もうまく活用しきれず、建物も荒れてきます。統廃合は学校だけでなく、地域にもさまざまな影響があるのです。子どもが通学していれば見守り隊などの活動もありますが、スクールバス通学だけでは、子どもたちに声をかける機会もなくなります。

Aさん 学校があつて子どもがいれば、年寄りたちも何かやらなければと思い、そこから地域が活性化します。年に1度の運動会で住民が集まるのも、意味があるんですよ。

目先だけで判断する危さも

—— 近年は、保護者の方から休校や統廃合を望むケースも出ています。

Aさん クラスに数人という学習環境が不安なのでしょう。でもいったん学校が廃校や休校になったら再開は難しいので、慎重に進めてほしいです。小学校の間ぐらいいは、道草しながら歩いて帰れる距離がいいと思うんですけどね。その中でいろんなことを学べますから。

文科省が示した公立小中学校の統廃合に関する手引き 及び 県教組の県内公立対象数(現在のクラス数)調査より

小学校	中学校	考え方	県内対象数
1~5 (複式学級あり)	1~2 (複式学級あり)	適否を速やかに検討。困難な場合は小規模校のメリットを最大限生かす方策	▶ 32小学校 2中学校
6 (クラス替えできない)	3 (クラス替えできない)	複式学級になる可能性があり、適否を速やかに検討。困難な場合は小規模校のメリットを最大限生かす方策	▶ 72小学校 15中学校
7~8 (全学年ではクラス替え不可)	4~5 (全学年ではクラス替え不可)	適否も含め今後の在り方を検討。複式学級になる可能性が高ければ、速やかな検討	▶ 15小学校 4中学校
9~11 (半数以上の学年でクラス替え可)	6~8 (全学年でクラス替え可)	教育上の課題を整理し、児童生徒数を予測して今後の在り方を検討	▶ 17小学校 10中学校
	9~11 (全学年でクラス替え可)	教育上の課題があるかを確認し、生徒数を予測して今後の在り方を検討	▶ 9中学校

県内公立小学校/194校 同中学校/74校

Bさん 今の学校は学習機関という意味合いが強くなり、文化の拠点としての意義は薄くなっています。でも学校がなくなれば、都会暮らしを選ぶ人が増え、過疎化は加速するでしょう。そうなると地域が管理できなくなつて国土が荒廃する。長期で見るとデメリットは大きいかもしれません。

—— 今回文科省から出された指針では、単式の学校も統廃合の対象です。最終的な決定は自治体の判断に任されています。

Aさん 財政的な理由からでしょうが、現在の地方創生の動きに逆行していますよね。節約できる部分は他にありません。今の子は、実はとても非科学的です。暮らしの中で科学を学び、遊びを生み出すような創造力は、コンピュータでは育たないんです。地域全体を学びの場と考えると、早計な結論は避けるべきだと思いますね。